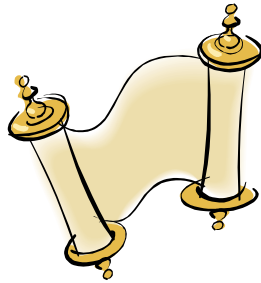


律法ってなんだ？



初めに……。

聖書にこう書かれています。

・テトス 3 : 9

愚かな議論、系図の詮索、争い、律法についての論議を避けなさい。それは無益で、むなしいものだからです。

なのでこの冊子では、極力説明する文章を排除し、御言葉を中心にしています。

この冊子では、律法を次のように定義しています。

：「律法」の定義：

律法とは、モーセ五書（創世記、出エジプト記、民数記、レビ記、申命記。ヘブライ語ではトーラー）のこと。聖書全体ではない。

また、律法に関する理解は、教派によって若干異なるようです。この冊子の内容は、それらの理解を否定するものではありません。それらすべての理解に、主の御心の一面が表わされており、組み合わせられて、主の栄光となると信じるからです。なので、この冊子も絶対的な聖書の真理ではなく、ひとつの理解ととらえてお読みください。

## Part1 律法をコンパクトにまとめてみる

### ① 律法は永遠のものである。

・ マタイ 5 : 18

はっきり言うておく。すべてのことが実現し、天地が消えうせるまで、律法の文字から一点一画も消え去ることはない。

・ ルカ 16 : 17

しかし、律法の文字の一画がなくなるよりは、天地の消えうせる方が易しい。

### ② 律法は良いものである。

・ ローマ 7 : 12

こういうわけで、律法は聖なるものであり、掟も聖であり、正しく、そして善いものなのです。

・ I テモテ 1 : 8～9

しかし、わたしたちは、律法は正しく用いるならば良いものであることを知っています。

### ③ 律法を守ると祝福があり、逆らうなら呪いがある。

・申命記 5 : 29

どうか、彼らが生きている限りわたしを畏れ、わたしの戒めをことごとく守るこの心を持ち続け、彼らも、子孫もとしえに幸いを得るように。

・ヤコブ 1 : 25

しかし、自由をもたらす完全な律法を一心に見つめ、これを守る人は、聞いて忘れてしまう人ではなく、行う人です。このような人は、その行いによって幸せになります。

・申命記 28 : 15

しかし、もしあなたの神、主の御声に聞き従わず、今日わたしが命じるすべての戒めと掟を忠実に守らないならば、これらの呪いはことごとくあなたに臨み、実現するであろう。

④ 律法は善悪の基準、道徳の規範である。

・ローマ 7 : 8～9

では、どういうことになるのか。律法は罪であろうか。決してそうではない。しかし、律法によらなければ、わたしは罪を知らなかったでしょう。たとえば、律法が「むさぼるな」と言わなかったら、わたしはむさぼりを知らなかったでしょう。ところが、罪は掟によって機会を得、あらゆる種類のむさぼりをわたしの内に起こしました。律法がなければ罪は死んでいるのです。

・ I テモテ 1 : 8～9

律法は、正しい者のために与えられているのではなく、不法な者や不従

順な者、不信心な者や罪を犯す者、神を畏れぬ者や俗悪な者、父を殺す者や母を殺す者、人を殺す者、みだらな行いをする者、男色をする者、誘拐する者、偽りを言う者、偽証する者のために与えられ、そのほか、健全な教えに反することがあれば、そのために与えられているのです。

## ⑤ 律法をまとめると、「神を愛し、人を愛する」ことである。

### ・ マタイ 22 : 38 ~ 40

「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」イエスは言われた。『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」

### ・ ガラテヤ 5 : 14

律法全体は、「隣人を自分のように愛しなさい」という一句によって全うされるからです。

## ⑥ 律法によって罪が明らかにされる。

### ・ ローマ 5 : 13

律法が与えられる前にも罪は世にあったが、律法がなければ、罪は罪と認められないわけです。

### ・ ローマ 4 : 15

実に、律法は怒りを招くものであり、律法のないところには違犯もありません。

⑦ 律法の実行によっては義とされない。

・ローマ3：20

なぜなら、律法を実行することによっては、だれ一人神の前で義とされないからです。律法によっては、罪の自覚しか生じないのです。

・ガラテヤ2：16

けれども、人は律法の実行ではなく、ただイエス・キリストへの信仰によって義とされると知って、わたしたちもキリスト・イエスを信じました。これは、律法の実行ではなく、キリストへの信仰によって義としていただくためでした。なぜなら、律法の実行によっては、だれ一人として義とされないからです。

・ローマ3：28

なぜなら、わたしたちは、人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰によると考えるからです。

⑧ 律法は、わたしたちに神の恵み、つまりメシアが必要であることを指し示す。

・ローマ3：21

ところが今や、律法とは関係なく、しかも律法と預言者によって立証さ

れて、神の義が示されました。

・ローマ 5 : 2 0

律法が入り込んで来たのは、罪が増し加わるためでありました。しかし、罪が増したところには、恵みはなおいっそう満ちあふれました。

⑨ 律法を完全に守れないという現実を知り、わたしたちは福音を信仰によって受け入れる。

・ガラテヤ 3 : 2 4

こうして律法は、わたしたちをキリストのもとへ導く養育係となったのです。わたしたちが信仰によって義とされるためです。

・フィリピ 3 : 9

わたしには、律法から生じる自分の義ではなく、キリストへの信仰による義、信仰に基づいて神から与えられる義があります。

⑩ キリストを信じることにより、わたしたちは律法の呪い (③を参照) から解放される。

・ガラテヤ 3 : 1 3

キリストは、わたしたちのために呪いとなって、わたしたちを律法の呪いから贖い出してくださいました。「木にかけられた者は皆呪われている」と書いてあるからです。

⑪ メシアによって律法は完成する。

・ガラテヤ 3 : 19

では、律法とはいったい何か。律法は、約束を与えられたあの子孫が来られるときまで、違犯を明らかにするために付け加えられたもので、天使たちを通し、仲介者の手を経て制定されたものです。

・マタイ 5 : 17

わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思っってはならない。廃止するためではなく、完成するためである。

⑫ 福音と律法は対立しない。むしろひとつである。

(「律法」 vs 「福音」ではなく、「律法の実行に頼る」 vs 「福音」)

・ローマ 3 : 31

それでは、わたしたちは信仰によって、律法を無にするのか。決してそうではない。むしろ、律法を確立するのです。

・ローマ 10 : 4

キリストは律法の目標であります、信じる者すべてに義をもたらすために。

⑬ キリストによって自由にされたわたしたちは、律法を行う義務から解放された。



- ・ローマ6：14

あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にいるのです。

- ・ローマ7：4

兄弟たち、あなたがたも、キリストの体に結ばれて、律法に対しては死んだ者となっています。

**⑭ わたしたちには、律法を守る自由も、守らない自由もある。**

- ・コリントI6：12

「わたしには、すべてのことが許されている。」しかし、すべてのことが益になるわけではない。「わたしには、すべてのことが許されている。」しかし、わたしは何事にも支配されはしない。

- ・ローマ14：6

特定の日を重んじる人は主のために重んじる。食べる人は主のために食べる。神に感謝しているからです。また、食べない人も、主のために食べない。そして、神に感謝しているのです。

**⑮ 律法から自由にされたが、同時に義の奴隷となった。なので、わたしたちは神の言葉に従って生きる。**

- ・ローマ6：15～19

わたしたちは、律法の下ではなく恵みの下にいるのだから、罪を犯して

よいということでしょうか。決してそうではない。……あなたがたは罪に仕える奴隷となって死に至るか、神に従順に仕える奴隷となって義に至るか、どちらかなのです。……かつて自分の五体を汚れと不法の奴隷として、不法の中に生きていたように、今これを義の奴隷として献げて、聖なる生活を送りなさい。

・テサロニケ I 4 : 7

神がわたしたちを招かれたのは、汚れた生き方ではなく、聖なる生活をさせるためです。

**⑩ 律法は永遠に変わらない神の言葉なのだから、(それを行う義務はないとしても) 律法に従って生きるなら、必然的に祝福された人生となり、律法に逆らって生きるなら、不幸な人生となる。**

・ヤコブ 1 : 25

しかし、自由をもたらす完全な律法を一心に見つめ、これを守る人は、聞いて忘れてしまう人ではなく、行う人です。このような人は、その行いによって幸せになります。

・ヤコブ 4 : 11

兄弟たち、悪口を言い合ってはなりません。兄弟の悪口を言ったり、自分の兄弟を裁いたりする者は、律法の悪口を言い、律法を裁くことになります。もし律法を裁くなら、律法の実践者ではなくて、裁き手です。

**⑪ わたしたちは聖霊によって律法を成し遂げることができる。**

- ローマ 7 : 6

しかし今は、わたしたちは、自分を縛っていた律法に対して死んだ者となり、律法から解放されています。その結果、文字に従う古い生き方ではなく、“霊”に従う新しい生き方で仕えるようになっているのです。

- ローマ 8 : 4

それは、肉ではなく霊に従って歩むわたしたちの内に、律法の要求が満たされるためでした。

## Part 2 律法の過去、現在、未来

### ① アダムの時代

墮落以前のアダムの時代は、人間には罪がなく良い存在であり、神と顔と顔を合わせて交わることができたので、律法は必要ではありませんでした。

・創世記 1 : 3 1

見よ、それは極めて良かった。

### ② イスラエルの時代

しかし、人の墮落し、罪の中に生きる者となりました。人は法によって矯正される必要が出てきました。神は、まずイスラエルを選び、イスラエルに律法を与え、神を恐れ敬うことを教えることにより、世界中の民族に対するモデルとしようとしたのです。

⇒イスラエルに与えられた律法の三つの目的

- 1、神との契約
- 2、メシアを地上に送るための準備
- 3、イスラエルを通して、神の栄光を世界に示すため

・申命記 4 : 1 3

主は契約を告げ示し、あなたたちが行うべきことを命じられた。それが十戒である。

・申命記 28 : 29

隠されている事柄は、我らの神、主のもとにある。しかし、啓示されたことは、我々と我々の子孫のもとにとこしえに託されており、この律法の言葉をすべて行うことである。

・ローマ 3 : 1

では、ユダヤ人の優れた点は何か。割礼の利益は何か。それはあらゆる面からいろいろ指摘できます。まず、彼らは神の言葉をゆだねられたのです。

・申命記 4 : 5～8

見よ、わたしがわたしの神、主から命じられたとおり、あなたたちに掟と法を教えたのは、あなたたちがこれから入って行って得る土地でそれを行うためである。あなたたちはそれを忠実に守りなさい。そうすれば、諸国の民にあなたたちの知恵と良識が示され、彼らがこれらすべての掟を聞くとき、「この大いなる国民は確かに知恵があり、賢明な民である」と言うであろう。いつ呼び求めても、近くにおられる我々の神、主のような神を持つ大いなる国民がどこにあるだろうか。またわたしが今日あなたたちに授けるこのすべての律法のように、正しい掟と法を持つ大いなる国民がどこにいるだろうか。

### ③ キリストの時代

地上におられた時、キリストは律法を守って生活されていました。律法に逆らって行動されたことは一度もありませんでした。キリストが積極的に批判されたのは、トーラー（モーセ五書）ではなく、長い歴史の中で、

律法学者や、ファリサイ派の人々が作り上げたトーラーとは別の掟（タルムード）でした。律法の本質は、神を愛し、人を愛することであるにもかかわらず、律法学者やファリサイ派の人々は、さらに多くの掟を作り上げ、それを守っている自分に酔いしれていました。キリストは、律法そのものよりもタルムードに固執し、愛と正義の実行から離れた律法学者たちの心と対決されたのです。

・マタイ 15 : 6

あなたたちは、自分の言い伝えのために神の言葉を無にしている。

・ルカ 11 : 42

それにしても、あなたたちファリサイ派の人々は不幸だ。薄荷や芸香やあらゆる野菜の十分の一は献げるが、正義の実行と神への愛はおろそかにしているからだ。これこそ行うべきことである。もとより、十分の一の献げ物もおろそかにしてはならないが。

#### ④ 教会の時代

キリストによって、救いの業が完成されました。そのため、動物の犠牲によって神に罪の赦しを願う必要がなくなりました。

・ヘブライ 10 : 18

罪と不法の赦しがある以上、罪を贖うための供え物は、もはや必要ではありません。

・ヘブライ 10 : 14

なぜなら、キリストは唯一の献げ物によって、聖なる者とされた人たち

を永遠に完全なものとなさったからです。

そして、わたしたちは律法から解放されました。今、わたしたちには律法を守る義務はありません。使徒たちは、救われた異邦人の群れに対して、ごくわずかな戒めだけを与えました。

- ・使徒 15 : 19 ~ 20

神に立ち帰る異邦人を悩ませてはなりません。ただ、偶像に供えて汚れた肉と、みだらな行いと、絞め殺した動物の肉と、血とを避けるようにと、手紙を書くべきです。

わたしたちは自由とされたので、律法を守る自由も、守らない自由もあります。しかし、律法そのものの意味が失われたわけではありませんし、律法が無価値なものとなされたわけではありません。なので、律法の基準に従って生活する方が、より幸せで、守られた人生を歩むことができます。なぜなら、律法は依然として神の言葉であり、善悪の基準、道徳の規範だからです。

そして、わたしたちは、義の奴隷となりました。また、神の子となりました。子が親の言葉に従うのは至極当然なことです。なので、わたしたちは必然的に、神を愛し、聖書の言葉を守って生きるのです。

- ・ヨハネの手紙 I 5 : 3

神を愛するとは、神の言葉を守ることです。

- ・ヨハネの手紙 II 1 : 6

愛とは、御父の掟に従って歩むことであり、この掟とは、あなたがたが

初めから聞いていたように、愛に歩むことです。

## ⑤ 新しい世界

天国においては、わたしたちは罪を持たないため、律法は必要ありません。牧師も必要ありません。キリストご自身と直に交わることができるからです。律法は、罪を持つわたしたちが地上で神に従って生きるために必要なものだったのです。

### ・ 黙示録 21 : 3 ~ 4

見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のものは過ぎ去ったからである。

「律法ってなんだ？」 発行:下諏訪キリスト教会

<http://shimosuwachurch.net/>